

昔々、ズォムウェという男がいて、ミツァミウリの町に住んでいた。この頃は島の地方の間で多くの争いがあった。コモロ人たちは町の間で和解してグランド・コモロ島をまとめることを決め、ミツァミウリに集まった。集会の間にズォムウェがたまたま通りかかったところ、突然狼藉者から顔に石を投げられた。その一撃は強烈で彼はひどい傷を負った。この襲撃に対処した者はひとりもいなかった。ズォムウェは黙って、まだ生きていることを神に感謝した。彼はその石を取り、ココヤシの葉で小さな籠を作り、石をその中に入れて籠を首に巻いた。それから 17 年、いや 20 年経ったが、彼はどこに行くにもずっとその石を持っていたと言われている。

ムブデ地方での戦いが再び起こった。疲れきった村人はムブデが他の町と和解することを求めてやって来た。かつてズォムウェに石を投げた男は成長し、公共の場で発言する人々の一人になっていた。和解のための集まりはムブデ地方の町、ヌツサウェニで開催された。ズォムウェはその集まりに参加して件の男がどう思うか聞こうと決めた。

ヌツサウェニに向かう途中で彼はシャムレの町を通った。彼がそこに着くと住人のひとりが彼に野次を飛ばし始めた：

「うー、うー、ズォムウェが来た！ ズェムウェが来た！」。

しかしながら、誰もそれに続かず、ズォムウェを罵ることに加わらなかった。そこでズォムウェは言い返した：

「はっはっは、ズォムウェはお前よりかなりましだな。野次はひとりで出すものじゃない。《うー》というのは大勢で出すものだ。たったひとりの野次なんて聞いたことがない。ズォムウェはお前より上等だ。恥を知れ。私はお前に勝ったのだ！」。

男は答えた：

「あんたが私に勝ったなんでどうして断言できるんだ？」

ズォムウェは言った：

「私がお前に勝ったというのはこういうことだ。お前は野次を浴びせながら、人々がお前に加わって私を侮辱して罵るよう呼びかけた。ところが誰も乗って来ず、誰もお前の呼び掛けに応えなかった。だから私はお前に勝ったのだ！」。

ズォムウェは再び出立して他の村までやって来た。彼はそこで村人たちが言い争っているのを見て、喧嘩の理由を訪ねた。ひとりの人が答えた：

「我々の村に病がはやり出したので、それから我々を守るための呪術をやろうとしているところだ。それには余所者をみんな村から追い出して我々と一緒にいないようにしなければならない。ところが日の出の時に、秘密の祈りの言葉が漏れてしまった。誰もそれがどこから漏れたのかわからない。村には余所者はいないのに」。

ズォムウェは答えた：

「はっはっは、ズォムウェはお前たちよりかなりましだ。言葉の蓋は唇だ。お前が自分の

中に、自分の腹の中に秘めているものはすべて、お前がそれを言わなければ出てこないものだ。心と言葉の蓋は唇だ。はっはっは、お前たちの唇がお前たちを裏切ったのだ。ズォムウエはお前たちよりましだ！」。

彼はそこから去り、道を進んでヌツサウエニの町に着いた。彼は集会のさなかに着き、その時に発言していた人物がかつて彼に石を投げた当の男であることがわかった。彼は小さな籠に手を入れて石を取り出し、群衆の中まで進んで「エ・ダー」と叫びながら顔に石を投げつけた。男は倒れ、群衆は怒り狂って叫び始めた：

「ズォムウエを捕まえろ！、ズォムウエを捕らえろ！」

人々が彼をやっと捕まえた時、ズォムウエはこういいながら言い訳をした：

「違う、違う、私はあいつにぶつけたんじゃない。ギブアンドテイクだ。私はあいつのものをあいつに返しただけだ」。

過去のすべての行いは、その人の生涯に様々な結果をもたらし、彼の運命の一部となるのだ。